

1. 開催日時・出席者等

○日時： 平成31年1月31日(木)17:30~18:30

○場所： 中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室

○Pitchテーマ： 最適化による物流革命、学生ベンチャーの挑戦と大学の支援

○招へい者： 松下 健 株式会社オプティマインド代表取締役社長

武田 一哉 名古屋大学総長補佐、情報学研究科教授

○出席者： 平井国務大臣、安藤政務官、上山 CSTI 議員、幸田内閣府審議官、三輪 CIO、神成副 CIO、高田局長（宇宙）、黒田審議官（科技）、奥田参事官（IT）、柴崎参事官（IT）、石井企画官（科技）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 松下社長・武田教授からの説明

- 株式会社オプティマインドは、(ラストワンマイルの) 配送ルート最適化の AI 開発を事業とした、名古屋大学発のスタートアップ企業である。日本郵便のオープンイノベーションプログラムで最優秀賞を獲得したことをきっかけに注目され、事業が拡大した。
- クラウドサービスを活用し配送した実績データを基にサービスの改良に結び付けるといふ、「実世界データ循環学」のスキームを実践している。これらで得たノウハウを複数の企業を超えて共有していることも特徴である。
- 名古屋大学では、学生ベンチャーを組織化し各々が持つ技術を組み合わせ、自動運転分野においてベストプラクティスを生み出すネットワークを形成しつつある。モビリティ技術を中心に、東海地区から日本のイノベーションを切り開いていきたい。

3. 主な質疑応答・議論

- 軽車両（自転車）への対応や、スマートメーターを活用した荷受人の在・不在データとの連携等、ビジネス拡張の可能性について議論された。
- 準天頂衛星「みちびき」の物流分野への利活用について議論された。サブメーター級であれば既に比較的安価で利用可能であり、「みちびき」利用によって、交通事故軽減などが期待できる、との意見があった。

- 今後の展望について、オプティマインドは世界への進出も視野に入れており、インフラ途上国である東南アジアをビジネスの展開先として有望視しているとのことであった。具体的には例えば、道路に設置している自動販売機内の商品の補てんの際のルート最適化に活用できる、との期待が示された。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)